

# 高校公民プリント (過去問類似)

## 日本の思想 No.2

名前

得点

/10

**問1** 第二次世界大戦後の混乱期において、戦時中の美徳や天皇制などの旧来の道徳的枠組みに依存することを批判し、人間が自らの弱さやありのままの自己を見つめ直して主体的に生きるために「生きよ、堕ちよ」と説いた、『墮落論』の著者である文学者は誰か。 (2019年 全国公立入試 類似)

1. 安部公房                      2. 川端康成                      3. 坂口安吾                      4. 横光利一

**問2** 古代の日本人が神々の前で理想とした、嘘偽りや汚れがなく、包み隠さず純粋で正直な心のあり方を何というか。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. 清き明き心                      2. 清き直き心                      3. 黒き汚き心                      4. 明き清き心

**問3** 平安初期に唐へ渡って密教を体系的に学び、帰国後に真言宗を開いた僧侶は誰か。彼は、宇宙の根底に働く真理を本尊とし、身体・言葉・心の3つの働きを整える修行を通じて、この世に生きながらにして仏となる即身成仏の境地に達することができる。と説いた。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 最澄                              2. 円仁                              3. 空海                              4. 円珍

**問4** 茶道における「一期一会」の精神を、その都度の茶事を一生に一度限りのものと覚悟して自己の最善を尽くすことと捉え、さらにこの態度を人生全般に広げて、各瞬間を一生に一度の覚悟で全力で生きることにより、無常を生命肯定の契機へと変えて充実した生が実現されると説いた、昭和期の日本の哲学者は誰か。 (2020年 全国公立入試 類似)

1. 久松真一                      2. 西谷啓治                      3. 九鬼周造                      4. 和辻哲郎

**問5** 古代日本の他界観において、死は忌むべき汚れ(穢れ)としても捉えられていた。『古事記』の神話において、火の神を生んで命を落とした伊邪那美命が赴き、彼女を追ってきた伊邪那岐命がその変わり果てた姿に恐れをなして逃げ帰ったとされる、地下にある死後の世界を何というか。 (2009年 全国公立入試 類似)

1. 高天原                              2. 黄泉国                              3. 根の国                              4. 常世国

**問6** 戦国時代、西日本を中心に伝来したキリスト教の信仰を受け入れ、領内での布教を保護するとともに、南蛮貿易による利益や武器・物資の入手を目指した領主たちを総称して何と呼ぶか。 (2008年 全国公立入試 類似)

1. キリシタン大名                      2. 戦国大名                      3. 織豊大名                      4. 守護大名

**問7** 朱子学が説く「理」を個人の主観的な思弁にすぎないと批判し、社会を治めるための具体的な制度や規範である「道」は、古代中国の先王が制作したものであると主張して、古典の言葉を直接読み解く古文辞学を提唱した人物は誰か。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. 新井白石                              2. 荻生徂徠                              3. 伊藤仁斎                              4. 貝原益軒

**問8** 江戸時代の朱子学者である室鳩巢は、仏教徒が極楽往生を願うことを、主君や親を顧みずに自分一人の安楽を求める利己的な姿勢であるとして厳しく批判した。このような彼の思想や、日常の教訓・逸話などが記されている、彼の代表的な著書は何か。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. 大学或問                              2. 駿台雑話                              3. 聖教要録                              4. 語孟字義

**問9** イギリス留学を経て、近代日本の急速な開化に伴う知識人の苦悩を見つめ、自己本位の個人主義を提唱する一方で、個人の自由の追求が他者との衝突やエゴイズムの自覚をもたらし、自我と社会との葛藤に直面せざるを得ない人間の姿を『それから』や『こころ』などの作品で描き、晩年には「則天去私」の境地を志向した作家は誰か。 (2005年 全国公立入試 類似)

1. 有島武郎                              2. 志賀直哉                              3. 夏目漱石                              4. 永井荷風

**問10** 自己を修める方法として朱子学における「敬」の道徳的実践を極めて重視し、君臣関係の絶対性を強調した江戸時代前期の儒学者は誰か。のちに儒学と神道を融合させた垂加神道を創始したことで知られる。 (2017年 全国公立入試 類似)

1. 荻生徂徠                              2. 熊沢蕃山                              3. 伊藤仁斎                              4. 山崎闇斎

## 答え合わせ・解説 No.2

問1	答え 3 坂口安吾	敗戦直後の日本において、それまでの価値観が崩壊する中で、虚飾の道徳を排して人間本来の姿に立ち返ることを主張した。著書『墮落論』において「生きよ、墮ちよ」と提唱し、既成の秩序や道徳に安易にすぎるのはなく、自らの意志で主体的に生きることを求めた。この人物は、太宰治らとともに「無頼派」と呼ばれた。
問2	答え 4 明き清き心	古代の日本人は、神々の前で包み隠さず、清らかで濁りのない正直な心で生きることを重んじた。この純粋な心のあり方は「明き清き心（明浄直き心）」や、嘘偽りのない心を示す「赤心（せきしん）」などと表現され、古代の道徳観の根幹をなした。
問3	答え 3 空海	唐で密教を学んだ空海は、帰国後に高野山を拠点として真言宗を開いた。彼は、宇宙の真理そのものである大日如来を本尊とし、身（身体）・口（言葉）・意（心）の3つの働きを仏と一致させる「三密修行」を行うことで、現世において仏の境地に達する「即身成仏」が可能であると主張した。この思想は、一切の生きとし生けるもの（一切衆生）を尊ぶ慈悲の姿勢とも深く結びついている。
問4	答え 1 久松真一	茶道における「一期一会」の精神を哲学的に探究し、茶事を一生に一度きりの機会として臨む態度を人生全般に拡張することを提唱した。この思想により、生老病死などの無常を単なる消極的な諦念や絶望として受け止めるのではなく、今この瞬間を全力で生きるという生命肯定の契機へと転化させ、主体的に充実した生を実現できると主張した。
問5	答え 2 黄泉国	『古事記』などの日本神話において、死者が赴く地下の死後の世界は黄泉国と呼ばれる。伊弉那美命が火の神を生んで亡くなった後にこの世界へ赴き、夫の伊弉那岐命が彼女を連れ戻すために訪れるが、変わり果てた姿を見て逃げ帰った。この神話は、古代日本人が死を「穢れ（けがれ）」として忌み嫌い、生者の世界と死者の世界を明確に区別しようとした他界観を示している。なお、海の彼方にあるとされる「常世国」や、天上にある神々の世界である「高天原」など、古代日本には多様な他界観が存在した。
問6	答え 1 キリシタン大名	戦国時代にキリスト教に入信した大名たちの総称。大友宗麟、有馬晴信、大村純忠などが代表的であり、彼らは南蛮貿易の利潤や先進的な技術・武器の獲得を目的として布教を保護し、自らも洗礼を受けた。彼らの中には、ローマ教皇のもとへ天正遣欧使節を派遣する者も現れた。
問7	答え 2 荻生徂徠	朱子学の「理」の探求が個人の内省や道徳的自己満足に陥ることを批判し、政治や社会の制度（経世済民）を重視する立場から新たな思考の枠組みを提示した。彼は、道とは自然の「理」ではなく、人間（先王）が社会秩序を維持するために人為的に作ったものであるとし、その理解のために古典を当時の言語として客観的に研究する手法を確立した。
問8	答え 2 駿台雑話	室鳩巢の講話や教訓を門人がまとめた『駿台雑話』には、彼の仏教批判が収められている。その中で彼は、極楽往生を願う仏教徒の心を、主君や親を捨てる利己的なものとして批判し、自己の安楽を求める心を捨てて人倫の道に尽くすことこそが聖人の教えに適うと説いた。
問9	答え 3 夏目漱石	近代的な個人主義（自己本位）の重要性を説きながらも、それがもたらす孤独やエゴイズムの自覚、そして自我と社会の要請との間の葛藤を深く見つけた。彼の作品群は、近代以降の恋愛が単なる自由の獲得にとどまらず、エゴイズムによる他者の犠牲や自己への嫌悪といった新たな精神的課題を生み出す過程を鋭く描き出しており、晩年には私心を捨てて天地自然の道理に従う「則天去私」の境地を目指した。
問10	答え 4 山崎闇斎	朱子学における「敬」を重視し、君臣関係の絶対性を強調した山崎闇斎は、のちに儒学と神道を融合させた垂加神道を創始した。藤原惺窩は仏教に疑問を持って朱子学を講じ、貝原益軒は実用的な学問や本草学を究め、佐久間象山はアヘン戦争の衝撃から「東洋道徳、西洋芸術」を唱えた。